

乳幼児を持つ女性の交通行動に関する研究 ～公園利用者を対象として～

福岡大学 辰巳 浩, 堤 香代子, 山岳 陽平

1.はじめに

近年、わが国では少子化問題が深刻化しており、子育て環境の向上や支援策が求められている。様々な分野で子育て支援が成されているが、交通分野に関してはあまり支援が成されていない。また、少子高齢化が進む現在、高齢者や身体障害者に対する支援や取り組みは数多く存在し、充実しているが、乳幼児連れへの支援は乏しい状況といえる。これは、乳幼児連れへの関心が、高齢者や身体障害者に比べて低いからである。乳幼児連れへの支援に力を入れている地域もあるが、まだまだ乏しい状況といえる。

このような現状の中、乳幼児連れの女性はどのような交通行動を取っているのか。女性が乳幼児を連れて出かける際によく利用する施設としては、幼稚園、保育園、公園、スーパーなどが挙げられる。

そこで本研究では公園へ行く乳幼児連れの女性の交通行動に着目し、研究を行う。

◇本研究の目的

乳幼児を持つ女性と持たない女性が、公園へ行くときの交通行動の違いを分析し、そこから今後どのような支援・対策が行えるのかを検討する。

バリアフリーに関する法律

年月日	法 律
1994年 6月29日	ハートビル法 公布
2000年 5月17日 11月15日 12月22日	交通バリアフリー法 公布 交通バリアフリー法 施行 ハートビル法 最終改正
2003年 4月1日	ハートビル法 施行
2006年 6月21日 12月20日 12月20日 12月20日	バリアフリー新法 公布 バリアフリー新法 施行 ハートビル法 廃止 交通バリアフリー法 廃止

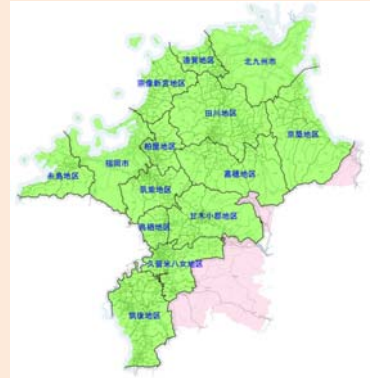
2.使用データの概要

本研究では、2005年に実施された第4回北部九州圏パーソントリップ調査データを用いて分析を行った。対象地域は北部九州圏(福岡県ほぼ全域、佐賀県鳥栖市、基山町からなる26市50町1村)である。

本調査では、各トリップにおいて乳幼児を連れているか否かの質問項目はない。そこで20～44歳の女性が私用目的で目的地を公園・緑地としたデータを抽出した。その上で、乳幼児を連れているか否かを判断するために、世帯票のデータから子供の種類を「乳幼児」、「非乳幼児」の2種類に分類を行った。

その結果、サンプル数は336であり、そのうち乳幼児連れが136、非乳幼児連れが200である。また、これらのデータを人ベースの拡大係数を用いて母集団を算出した結果、全体で7,285トリップであり、そのうち乳幼児連れが2,766トリップ、非乳幼児連れが4,519トリップとなった。

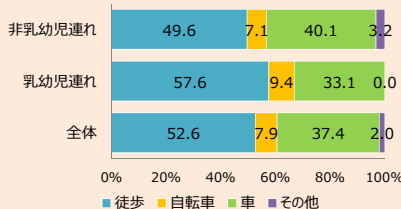
本研究では、この人ベースの拡大係数の値を使用し、分析を行っていく。



北部九州圏パーソントリップ調査対象地域

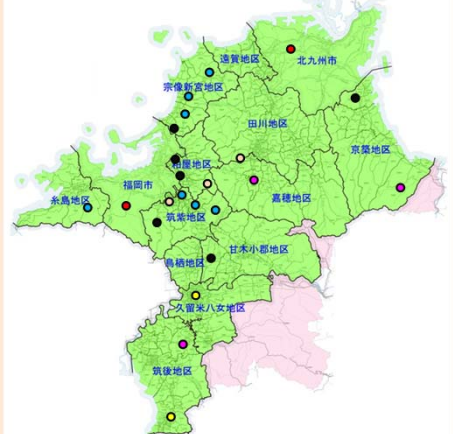
3.調査結果

◇代表交通手段



乳幼児連れの女性が公園へ行く際の交通手段は、徒歩、自転車利用の割合が高い。一方、車の利用は低く、公園を利用する際は、徒歩や自転車で行くことができる近場の公園を選択していることが考えられる。

◇都市公園数別の市区町村



私用目的で公園へ行った女性の居住地の市町村の都市公園(基幹公園、大規模公園、特殊公園、国営公園など)の整備状況(福岡県統計課)を示す。なお、都市公園数は4,996箇所である。

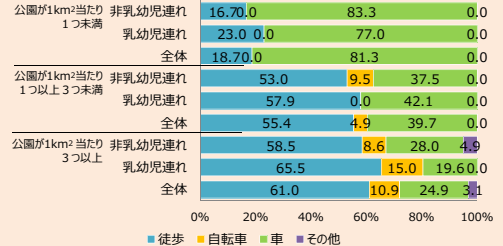
◇市町村別の都市公園数

市町村名	市町村 総人口 (千人)	都市公園 箇所	都市公園 面積 (ha)	1人当たり 都市公園 面積 (m ² /人)	千人当たり 都市公園 箇所	千人当たり 都市公園 面積 (km ²)	1km ² 当たり 都市公園 箇所
豊前市	28	4	23	9.21	0.14	111.17	0.04
筑後市	48	4	19	4.03	0.08	41.85	0.10
飯塚市	133	61	169	13.52	0.46	214.13	0.28
桂川町	15	7	44	29.37	0.47	20.07	0.35
那珂川町	48	43	11	2.48	0.90	74.99	0.57
新宮町	24	13	4	1.91	0.54	18.91	0.69
羽田町	34	35	20	6.42	1.03	46.54	0.75
小都市	59	38	37	6.25	0.64	45.50	0.84
粕屋町	39	13	8	1.96	0.33	14.12	0.92
久留米市	305	275	188	6.97	0.90	229.84	1.20
宗像市	95	149	156	18.31	1.57	119.66	1.25
前原市	69	141	36	5.17	2.04	104.50	1.35
宇美町	67	122	28	4.29	1.82	29.58	4.12
福津市	56	109	47	8.98	1.95	52.70	2.07
筑紫野市	98	185	98	10.39	1.89	87.78	2.11
古賀市	57	102	46	9.89	1.79	42.11	2.42
大牟田市	131	232	123	9.37	1.77	81.55	2.84
北九州市	986	1,600	1,111	11.28	1.62	487.71	3.28
大宰府市	67	122	28	4.29	1.82	29.58	4.12
福岡市	1,415	1,556	1,226	8.67	1.10	340.96	4.56
大野城市	93	132	107	11.50	1.42	26.88	4.91
志免町	42	43	44	10.38	1.02	8.70	4.94
春日市	109	80	88	8.08	0.73	14.15	5.65

乳幼児連れの女性の交通行動は、公園の数など居住地の市町村の環境によって異なると考え、都市公園の数を用いて分析を行った。

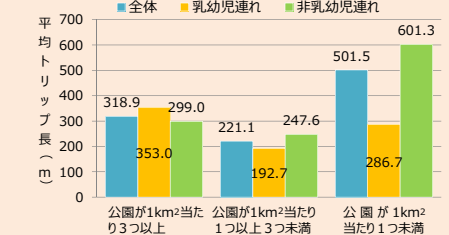
各市町村の1km²当たりの都市公園数を算出し、赤文字で示す市町村は「公園が1km²に3箇所以上ある地域」、青文字は「公園が1km²に1箇所以上3箇所未満の地域」、黒文字は「公園が1km²に1箇所未満の地域」である。

◇代表交通手段と都市公園数



乳幼児連れの女性は、公園の密度が高いほど自転車を選択する。しかし、平均トリップ長から、自転車で行く公園へは行かず、近場の公園を選択していることが考えられる。

◇トリップ長と都市公園



公園が1km²に3つ以上の地域でだけ、乳幼児連れの女性の方が長くなっている。このことから、1km²以内に多くの公園が存在する地域では公園の選択肢が増えるため、乳幼児の為に少し遠くの公園へ足を運んでいることが考えられる。

4.まとめ

公園へ行く乳幼児連れの女性の交通行動として、非乳幼児連れの女性よりも徒歩を選択する割合が高く、徒歩での移動距離は乳幼児連れの女性の方が長い結果となった。このことから、乳幼児連れの女性が徒歩を選択して公園へ行く場合は、乳幼児の為に少し遠くても設備の整った公園を選択していることが推察できた。

また、非乳幼児連れの女性よりも自転車を選択する割合が高く、自転車での移動距離は乳幼児連れの女性の方が長い。公園の密度が高いほど、自転車を選択する割合が高くなる結果となった。このことから、乳幼児連れの女性が自転車を選択して公園へ行くことに抵抗感があることも推察できた。これらのことから、徒歩と自転車移動する際のバリアを無くすことに重点をおく必要があることがいえる。

今後の課題として、徒歩と自転車移動する際のバリアを無くす支援策を検討することを課題とする。

